

# それぞれの場所で、懸命に生きる

氏名： 川上 寿和子

学校名： 豊見城市立長嶺中学校

担当教科： 英語

実践教科： 道徳・学活

時間数： 5時間

対象学年： 第1学年

人数： 34人

## 【実施概要】

### 【1】単元目標：

「それぞれの場所で懸命に生きる」

この広い世界で、だれもがその場所で懸命に生きていることを実感し、価値観は違うが同じ人間という意識のもと理解しあえるという気持ちをはぐくむ。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 関心・意欲・態度	異文化に対し肯定的な態度で受け止め、もっと知りたいと思う
	(イ) 思考・判断・表現	本人の内なる思考判断は評価できないため、該当しない
	(ウ) 技能	—
	(エ) 知識・理解	世界の数ヶ国について、知ることができる。

### 【3】 単元設定の 理由

#### 【課題設定の理由】

中学一年生は地理や歴史で学ぶ中で、今ようやく世界のことを知識として知りつつあるが、そこで生きる人に対してはまだ遠く感じているようである。自国以外の人、特に途上国は遠く関係の無いことで、興味が持てないという声を聞いた。直接的な関わりがなくとも同じように生きている人がこの世界にはたくさんいる。違いある立場や考え方を知り理解しようとする中で、地球上に生きる同じ人間として、みなそれぞれ懸命に生きている素晴らしさに共感し大きな連帯感を味わうことができれば、平和への一歩となるだろうとの願いをこめ、この課題を設定した。

#### (1) 生徒観

率直な物言いをする生徒が多く、教師の発問に対して良くも悪くもすぐに反応する。男女問わず控えめでも自分の意見は言える生徒が多く、グループ活動などでは意見を交わすことができる。数名外国に行ったことある生徒もいるが、途上国に関しては、最初にラオス紹介したときの様子をみると異なるものととらえ、親しみは感じていないようだった。

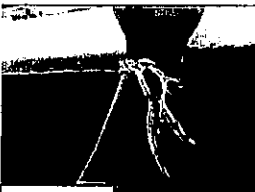
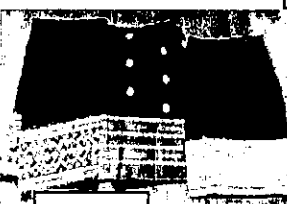



#### (2) 教材観

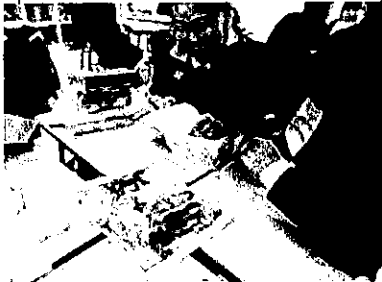
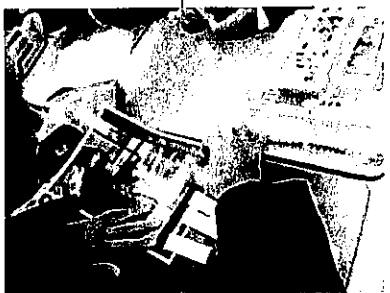

当初はラオス関連の教材のみを考えていたが、生徒に身近なものを通しての授業をと考え直し、ラオス一国のみでなく幅広い教材を扱った。様々な国やその視点を通し、世界と自分を見つめ考えることを念頭におき、既存のJOCA教材も大いに活用した。

#### (3) 指導観


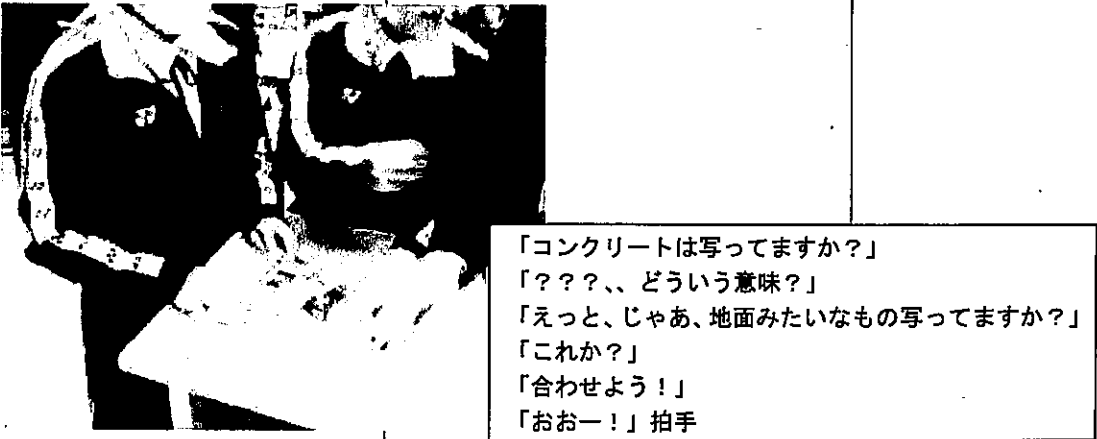
国際理解・開発教育指導者養成講座で学んだ参加型手法を取り入れた授業を行った。単元後半からは生徒の言葉から次の授業へとつなげ授業を作った。身の回りの物事や人間関係で完結していると思いがちな中学生に、世界とのつながりを感じさせ、場所は違えど同じ人間同士がこの世界で懸命に生きているという実感を持たせたい。

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>「知ってる？ラオス？」</p> <p><b>ねらい</b> ラオス土産を介し、それが何かを考え、ラオスを主体的に知ろうとする。また地図などを使い、ラオスの基礎知識を学ぶ。</p>  <p>ティップカオ ラオスのご飯を入れる お弁当箱</p>	<p>モノ・ランゲージ</p> <p>ラオス土産を直接手にとり、そこからそれが何かを考えて、ラオスを主体的に知ろうとする。</p>  <p>パーシ</p>  <p>シン</p>  <p>カオニャオ（餅米） を蒸すもの</p>  <p>不発弾で作られた置物</p>  <p>不発弾で作られたスプーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白地図</li> <li>・ラオス土産</li> <li>シン</li> <li>パーシ</li> <li>ティップカオ</li> <li>カオニャオを蒸すもの</li> <li>算数の教科書</li> <li>不発弾スプーン・置物</li> <li>ポストカード</li> </ul>
2	<p>「ウムヨム村のブタの一生」</p> <p><b>ねらい</b> ウムヨム村のブタになりきることで、命のつながりを実感する。</p>  <p>「ブタの失敗」かあ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ウムヨム村ってどこ？</li> <li>② フォトランゲージ</li> <li>③ ブタのストーリーを考えよう 「ブタの恋」「ブタの失敗」「ブタのけんか」</li> <li>④ このブタの最後はどうなる？</li> <li>⑤ 振り返り</li> </ol>  <p>「ブタの恋」え～！</p>	<p>「ウムヨム村のブタの一生」 ワークシート</p>
3 本時	<p>「その先には、何がある？」</p> <p><b>ねらい</b> ○切り取られた写真の一部から、その残りを想像することで、視点を変え、見える世界が変わって、知ることを知り、実生活でもいろんな見方があることに気づかせる。 ○ラオスで生活している人々になってみるつもりで、話を考え、共感し、同じ生きていることを実感する。</p>	<p>詳細は【5 本時の展開】にて</p>	<p>ラオスでの写真 ワークシート</p>

<p>4, 5</p>	<p>「おいしいチョコレートの真実」</p> <p><b>ねらい</b> 生徒が大好きなチョコレートの裏側とその産地であるガーナのチョコレート農家の家族擬似体験を通して、日本とガーナの格差やチョコレート農家内での格差も知る。</p>	<p>① 第一時間目はチョコレートクイズで、チョコレートが作られるまでを理解する。</p> <p>カカオの実、産地、チョコレートの消費国、カカオ価格の決め方、児童労働について。 日本で売られている身近なチョコレートとフェアトレードのチョコレートなど。</p> <p>② 第二時間目はチョコレートに関わる人々を擬似体験する。シーズン1とシーズン2にわたる買い物ゲームを通して、理解を深める。</p>	<p>「おいしいチョコレートの真実」 ACE ワークシート2種</p> <p>明治ガーナチョコレート 森永ダースチョコレート 「1チョコ for 1 スマイル」 People Tree Fair trade chocolate</p>
<p>番外編</p>	<p>【英語】4クラス —辞書指導— 「自分の単語を広げよう」</p> <p>ラオスの写真を見て見つけたこと、思ったこと、感じたことを辞書を使い、英単語（英文）で表現する。</p>  <p>まずは目に付いた単語を英語にしてみよう。</p>	<p>① 4人グループを作る。 ラオスの写真と付箋紙をグループに配布。</p> <p>② 思いつくままに、英単語を付箋紙ではる。(5分)</p> <p>③ シェアリング① ここでは、簡単な既習単語ばかりが多くでるので、「そういう単語も勉強したね」と確認し、さっと進める。</p> <p>④ 「自ら単語を広げること」を意識させ、「これってどういうのかな?」という視点で単語を探していく。 ☆ここで日本語と英語のギャップを感じ疑問が多く出てくるので、それも付箋紙にあげるよう指示する。</p> <p>⑤ シェアリング②未習の英単語は黒板にあげ、確認をする。疑問に感じていることもクラスでシェアし、確認する。</p> 	<p>ラオス写真8枚 付箋紙 各自で英語辞書 (英和・和英)を用意</p>  <p>出てきた単語 dancing・cute girls・traditional・brilliant and innocent smile・barefoot ☆little/small/young/infant? 小さいって何ていう?</p>

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (3分)	例として一枚の写真を四分割し、その一つを生徒に提示し、「残りには何が写っていると思う？」と問う。	生徒の意見はすべて黒板にあげますが、ここで、答え合わせはしない。	教師が取ったラオス写真5セット (一枚を3~4つに切り分けておく)
展開1 (8分)	<p>○アイスブレーキングおよび グルーピング</p> <p>「これからみなさんが持っている残りの写真を見つけましょう。質問は、 『～は写ってますか？』 『～はありますか』 と手持ちの写真からは見えない部分を想像し、相手ペアに質問し、写真を完成させましょう。」</p> <div data-bbox="300 1167 1134 1603">  <p data-bbox="363 1509 967 1603">「爆弾みたいな鉄の塊？、、、はありますか？」 「わかりやすいっ！」</p> </div> <div data-bbox="288 1648 1390 2085">  <p data-bbox="778 1872 1390 2085">「コンクリートは写ってますか？」 「????、どういう意味？」 「えっと、じゃあ、地面みたいなもの写ってますか？」 「これか？」 「合わせよう！」 「おおー！」拍手</p> </div>	<p>四ピースに切り分けられた写真をランダムに生徒ペアに配布する。</p> <p>ペア活動で、仲間探しをするように指示する。</p>	

<p>展開2 (15分)</p>	<p>「完成した写真と、お題を使い、そこに生きる人々のお話をつくってみましょう。」</p> <p>お題</p> <p>こうやって食べると美味しいよ</p> <p>遊んではいけません</p> <p>私の仕事</p> <p>思ったよりも美味しいよ</p> <p>楽しい時間</p> <p>待つ人</p>	<p>8グループ(3~4人)で、話を考える。</p> <p>① 付箋紙を使いアイデアをだす。</p> <p>② 黒板に掲示されたお題を自由に選び、お話を考える。自分たちでお題を考えても良い。</p> <p>☆8グループのうち3グループは同じ写真を使用し、話を作っているが本人たちにはそれは伝えない。</p> <p>お題も自由に選べるため、重なる場合があるがそれもよしとする。</p>	<p>追加ラオス写真3セットを用意(アイスプレーキング用の写真だけでは足りないため。あえてアイスプレーキングの同じ写真を用意する)</p>
----------------------	---	---	---



お題 大事な時間

どんなお話かな

ラオスでは、黄色い服のおぼろさんが、みんなにお食を配っています。楽しい人に喜ばせているのです。トモラ おぼろさんは、みんなに喜ばせています。一輪車の三人がお食を配り、うしろの子どもたちは食い粉を配ります。

(大事な) お題 楽しい時間

どんなお話かな

おじいさんとおばあさんは一緒に外でおやらのパンを食てます2人は食あてているので、この時間かたでうれしくて楽しい時間です。

<p>まとめ (20分)</p>	<p>シェアリング</p> <p>初めに各グループが作ったお話をシェアする。代表者が発表する。</p> <p>グループ発表ごとに教師が実際にラオスでみた事実を伝える。</p>	<p>クラスメイトが作った話を聞くと心が一番盛り上がるので、和やかな雰囲気を残しつつ、教師の見た事実へと繋げる。</p>	
----------------------	---	--	--

<p>まとめ (20分) つづき</p>	<p>最初に行ったアイスブレイキングも振り返りをする。</p> <p>「この時間の振り返りをしまし よう。」</p>	<p>想像力を働かせたり、質問の仕方を変えてみることで、探したいことが見つけられたこと。ペアの意見にも耳を傾けながら、問題を解決したこと。自分だけの視点でなく、想像して仲間と練り合って試行錯誤することができたことをシェアする。</p> <p>静かな雰囲気の中自分の思いや気づき、考えなど言語化する。</p>	
------------------------------	--	---	--

【6】本時の振り返り

- アイスブレイキングは、一人よりも席が隣り合ったペアで行う方がよい。一人だと動けない生徒が数名いる。
- お題や写真が重なっているグループがあったが、その内容はそれぞれ独自性に富んでいた。シェアリングの時に「一つの写真やお題からこんな風に話は広がるんだ」と、生徒一人ひとりのもつ想像力を喜びをみんなで分かち合えた。
- 写真は教師自身が撮った写真がよい。シェアリングの時には教師が見た事実を話すので、撮った本人の写真がより鮮明に伝わる。
- グループでの意見交換は活発で、お話作りも、「ウムヨム村のブタの一生」でも行ったので、取り組みはスムーズで楽しんで行っていた。これが最初の取り組みだと2時間はかかると思う。
- 見学して下さった方から、「お話作りの場面で、生徒が想像した間違っただけの情報を鵜呑みにする心配は無いのか」とあった。教師が生徒発表の後、教師が見た事実を話すのだが、生徒は生徒で作ったものの方が印象に残ってしまい、間違っただけの情報を植え付けることになることも無いとは言えず、今後勉強し工夫改善を図りたい。
- 最後は自分の思いを言語化することで、生徒それぞれ学んだことを深め、締めくくりたかったのだが、その時間をじっくり取るができなかった。(ゆっくり振り返らせるため10分は取りたい)

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

[初めの反応] 生徒間で差があり、興味をもって取り組む生徒が大半だが、興味がない生徒も数名いた。

「知ってる？ラオス？」

③ 今日のワークシートを通じた感想  
やんち思ふこと、感ずること

あうん有り。

とらる(笑)な。

今日の授業で自分が思ったこと、考えたこと 振り返りしよう①

楽しい・あもしろい・悲しい・へえ〜そういってあるか〜

眠い・興味ない・もっと知りたい・もやもや・なんでそうなるの？

わくわく・ [ ] したかった・自己嫌悪・ さい

感想 ↑ たんてそう思ったのかな？ 自分言葉で大事にして、昇格など  
くわく書いてみよう。

ほのぼのがっす

「チョコレートの実①」

「知ってる？ラオス？」

今日のワークショップを通しての感想。

やってみて思ったこと、感じたこと

ラオスのお土産から自分たちで何かを予想し考えて、それから話を聞くのは楽しかった。  
「うん、はるいと思、たけど」、私たち同じなことに気がついた。= 知らないのに決めつけてしまった  
「ほとんど知らな、い国だったけど」この7時間気持ちはラオスに向けて不思議な感じがあった。



○参加型手法に慣れてくると、お話作りなどの発想が自由に広がり始めた。

「ウムヨム村の豚の一生」

問2. キーワードから想像してお話を作りましょう。

キーワード ( フタ の 恋 )

作った話を書きましょう。

このフタは昔オグダがばあさんの幼なじみで、ある日オグダがばあさんが病気になることになって、魔如どこに薬をもらいに行き、薬をもらうかわりにフタにさかれてしまった。それでオグダがばあさんのそばにいたくてオグダがばあさんのそばにいたが、その魔如はオグダがばあさんで、すべてオグダがばあさんの作られた。ツクをうけたフタ、その後食べられた。

【単元後半】共感したり、何かここからできることはないかと考える生徒が増えてきた。

「チョコレートの実験②」

1本試してみても気がついたこと。

マハマ家になって、長女でアナン家で家政婦として働いてツースツでほんとかや、ていけたけど、ツースツ二にな、て母さんも農園をたにさ、て、弟たちも学校に行けないと思うとともかなしくて、くやしかったです。

ふり返り: 楽しい、面白い、悲しい、興味ない、  
現地の人が ( やい、ハエ〜そうなの、わくわく、  
もっと知りたい、モヤモヤ、なんでそうなるの、  
わくわく、自己嫌悪、( 面白い、怒り、

なんでそう思ったのかな？  
家族みんなで暮らせたかったり、  
働かなくていいのに死にたいと思  
うのかな？

「チョコレートの実験①」

今日の授業で自分が思ったこと、考えたこと ぶり返りしよう ☺

くっせつ  
○き  
くっせつ  
くっせつ

楽しい・おもしろい・悲しい・ハエ〜そうなの〜  
眠い・興味ない・もっと知りたい・モヤモヤ・なんでそうなるの？  
わくわく・ 現地の人の話 したくなった。自己嫌悪・面白い

感想: 1. なんでそう思ったのかな？ 自分の言葉も大事にして、気持ちなどくわしく書いてみよう。

現地の人がどう思っているのかしらな〜な。もし、即けてあげられることはアナンかな？ 僕も、きこらぬ授業だった

○外国への気づきと同時に、日本にいる自分たちへの気づきもあった。

「チョコレートの真実②」

# 体験してみても気がついたこと。

めっちゃ幸せだった。高橋家の収入が少なかった、他の人たちは多いから、幸せを感じた。  
収入が増えたら、他の家にもおかしな、必要の無い、新型のものを買わなくて良かった。

(振り返り) 気づき

楽しい、面白い、悲しい、興味深い  
くやしい、へえ〜どうなの、わくわく  
も、と知りました、ちやもや、たんにどうなの、  
わくわく、自己嫌悪、さみしい、怒り。

たんにどう思ってたのかな?

要らない物は買わなくて良かった。

「チョコレートの真実②」

・おちがゆ富になれたら「なるほど、苦しむ人達がいる」ということに気がついた。  
・金持ちすぎるのも虚しいという。あんまりお金の多すぎた。お金の多すぎた。  
・豪遊すぎて、みんな暮らしていいのかわからない。社長として、どう産んだ時や、スライヤされた時の事も考えてせうやくし、お金の多すぎた。

(振り返り) 気づき

楽しい、面白い、悲しい、興味深い  
くやしい、へえ〜どうなの、わくわく  
も、と知りました、ちやもや、たんにどうなの、  
わくわく、自己嫌悪、さみしい、怒り。

たんにどう思ってたのかな?

セリスカードで「高橋 会社」  
「児童労働者がいるのか」という問い合せ  
が来た。お金の多すぎた。お金の多すぎた。  
たんにどう思ってたのかな? 日本と日本と  
いかに差がなくなれば良いと思ふ。

○もっと知りたいと思う生徒は確実に増えた。

「チョコレートの真実②」

# 体験してみても気がついたこと。

・日本のカカオ収入UPしたとき、他のカカオ農園は、収入が下がることに気がついた。  
・カカオの取れる量が減るとその分、カカオの価格が下がって、くらしが「まぶしくなる」。  
・カカオの取れる量が減るとその分、カカオの価格が下がって、くらしが「まぶしくなる」。  
・カカオの取れる量が減るとその分、カカオの価格が下がって、くらしが「まぶしくなる」。

(振り返り) 気づき

楽しい、面白い、悲しい、興味深い  
くやしい、へえ〜どうなの、わくわく  
も、と知りました、ちやもや、たんにどうなの、  
わくわく、自己嫌悪、さみしい、怒り。

たんにどう思ってたのかな?

他の国のことをもっと知りたくなった。体験する機会が近くたって良かった。  
他の国に



「チョコレートの真実②」

(ふり返り) 楽しい・面白い・嬉しい・興味がある  
 学びがけく くわしい、へんじょうなものが、わくわく  
 (も、と知りたいたい・おもちゃ、なんじょうなるの?)  
 わくわく、自己嫌悪、おもしろい、怒り。

なんじょうな物だったのかな?  
 今日習ったものばかりでは、習った  
 現状を知らずにいるから、  
 現地には、実際に経験してないと、  
 大変さも分からないから。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- 道徳の時に「次はどこの国をやるの?」と期待した発言をし、外国に対してもっと知りたいと思う生徒が確実に生徒が増えてきた。
- チョコレートの産地を気かけたり、自らフェアトレードのチョコレートを探しに行ったりと、学んできたことが生徒自身のアンテナとして立ち、行動へとつながり始めている。地元の新聞やテレビで取り上げられているラオスのラオラオ酒の話題もあり、自らの学んだ経験が世界と繋がっていることを実感しているようだ。
- それぞれの国の文化や価値観の違うことへの理解を学んでいく中で、学校生活においても性格が異なる級友それぞれが持つ多様性を受容するようになってきている。意見の違いから衝突することはあっても、互いに許し合い、笑い、支えあう関係となりつつある。

【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

- 途上国や異文化に対して、遠い世界の物事にとらえ「興味が無い」と言う態度の生徒が数名いた。また異なる物事を怖がり、「日本でよかった」「日本ってとても〇〇な国なんですよ」と盲目的な自画自賛がみられた。

(授業後)

- 先入観で拒むより、まずは知ろうという肯定的な興味を持つ生徒が増えた。
- 「遠い国だし、ブタも火でこうやって(丸焼きにして)食べないけど、ブタとかここウムヨム村の人たちの普段の生活を知ったら身近になった感じがした。」  
 (ウムヨム村のブタの一生でのグループシェアリングでの生徒の発言)
- 世界にあるいくつかの国々を学ぶ中で、自国を振り返り、当たり前だが新しい気づきがあった。  
 「うちらっていらん物ばかりじゃん!ほんとに必要な物(水・教育など)はもうすでにあるし。」  
 (チョコレートの真実での買い物ゲームの時に日本人の家族役にあたった生徒の発言)

【8】自己評価

<p>(1) 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマを絞ることが一番苦しかった。ラオスのことを思い出せば出すほど、伝えたいことをシンプルにまとめ、かつ一貫したテーマのもとで行う授業計画が足踏み状態となった。それにより授業実践するも生徒に深く落とすところまで届かない授業となった。</li> <li>○産みの苦しみがあつた。誰にでも取り組める一般化される教材を作り出すという難しさを感じ、それができる人たちに心から感服した。</li> </ul>
------------------	---

<p>(2) 改善点</p>	<p>○発問をよりよく考えること。それを念頭に置くことで落としどころが明確となる。それぞれの考えをただシェアするだけだと、生徒の意見が各自で暴走し、終りにはモヤッと感がどうしても残り、それを解決する方法もなく終了という心残りがあった。</p> <p>○授業 1~2 回目まで生徒の感想に「(遠い国のことだから) 興味がない」などがあった。実物を使った紹介やフォトランゲージは参加型であるも、斜めに構えている生徒にとっては、まだ一方的なのかもしれないとアプローチや発問の工夫が必要と感じた。</p> <p>○ファイリングをしっかりと行い、授業での振り返りを時系列で、掲示物として残す。本人に直接返したことが多く、掲示物としての全体共有や後から見返すことができなかった。</p>
<p>(3) 成果が出た点</p>	<p>○フォトランゲージで慣れるようになると、写真から想像力を膨らませて考え発言することが身につく、また付箋紙を使用することでさらに発言しやすい雰囲気生まれ、活発かつ和やかな意見交換ができた。</p> <p>○途上国の情報は受動的にテレビによって得られるのが多い。最初は共感よりも面白がる様子が多かったのだが、「同じだね」と言う安心感を授業で重ねることで、同じ生きている人間としての共感を抱くような柔らかい反応に変わっていった。世界の人と繋がる素晴らしさを全員が感じ取れたかはまだわからないが、確実生徒の視野は広がり始めている。</p>

添付資料：

左下：「ウムヨム村のブタの一生」地球生活体験学習教材 青年海外協力協会（JOCA）

真ん中：おいしいチョコレートの真実 ACE（国際協力 NGO）

右下：チョコレートの授業で使ったチョコレート（実際に手に取ってみると生徒の食いつきは違う。）



参考資料

- ・「対話型ファシリテーションの手ほどき」中田豊一 認定 NPO 法人ムラのミライ
- ・「自発学習型 異文化コミュニケーション入門 ワークブック」中村良廣 著 石丸暁子 編 松柏社
- ・「ラオスにいったい何がいうんですか？」村上春樹 文藝春秋
- ・明治チョコレート/森永チョコレートの CSR 活動の取り組み HP  
<http://www.meiji.co.jp/csr/stakeholder/meiji-support-for-cocoa>  
<http://www.morinaga.co.jp/company/csr/social/support.html>